

名医に学ぶセミナー

Learning from Experienced Doctors Seminar, 2013

日時：平成25年6月12日（水）17:30～19:00

June 12th (WED) from 17:30～19:00

場所：医学教育図書棟3階 第2講義室

Lecture Room 2, Medical Education & Library Building 3F.

濾胞性リンパ腫の研究進展

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

腫瘍病理学 教授

吉野 正先生

Prof. Tadashi Yoshino

Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry & Pharmaceutical Sciences.

今回は、我が国における悪性リンパ腫診断学の第一人者でおられる吉野教授に講演をしていただきます。特に今回は、我が国で発症率が増加している濾胞性リンパ腫につきまして、基礎から臨床まで幅広く話題を提供していただきます。本講演の要旨は以下のとおりであります。

濾胞性リンパ腫は進展緩徐なリンパ腫の代表的疾患であり、明らかに発生頻度が上昇している。今やその相対的頻度は欧米のそれに匹敵するところまで来ている。言うまでもなくリンパ腫はリンパ球の腫瘍化したものであり、いわゆる「由来細胞」の性格をかなり正確に引きずっている。濾胞性リンパ腫のそれは胚中心細胞にあたるが、この病変を研究することで胚中心の役割もより明確になってきた。また、低悪性度の濾胞性リンパ腫は一定の割合で高悪性度化することが知られており、それがどのような機序で起こるかは腫瘍発生機転を研究する上でも重要である。さらに、消化管、とりわけ十二指腸に濾胞性リンパ腫が発生しやすいことを報告し、その成果は2008年のWHO分類に取り上げられることとなった。濾胞性リンパ腫についての最近の知見を紹介したい。

世話分野：分子生理学 富澤 一仁 教授

(Prof. Kazuhito Tomizawa, Department of Molecular Physiology)

レポート提出先：tomikt@kumamoto-u.ac.jp

医学教務：iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp